廃棄土坑 001SK 出土の軒桟瓦と植木鉢

植木鉢いろいろ（19 世紀初め）

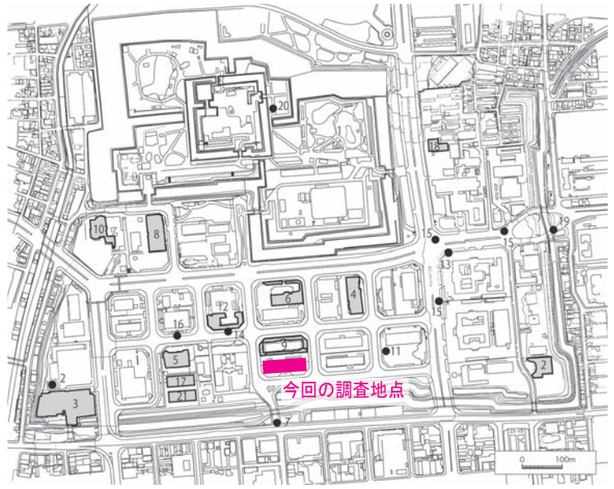


図 4 名古屋城と名古屋城三の丸遺跡の調査地点
（番号付きの部分が過去の調査地点）

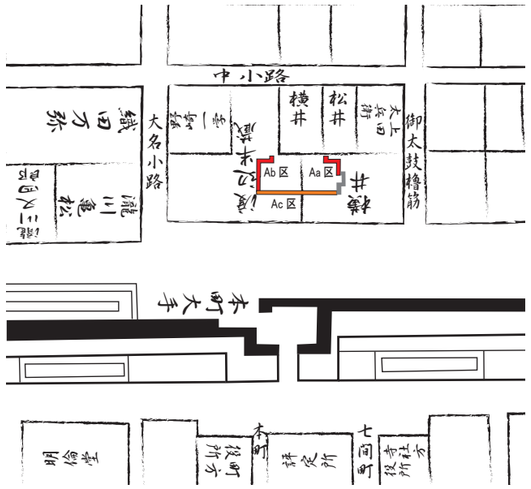


図 5 江戸後期屋敷割と調査地点推定地

◆まとめ◆

江戸時代の武家屋敷は、役職により与えられた拝領屋敷であり、屋敷替（やしきがえ）つまり藩士の引越しが度々ありました。これまでの調査では、屋敷裏には廃棄土坑（はいきどこう）が重複して多数見つかることが多く、日常生活の、あるいは引越しの際のごみ処理の空間と考えられてきました。

今回の調査地点も屋敷の裏手にあたる範囲（図 5）でしたが、池や複数の排水施設が近接して認められるなど、**庭園**の存在が確認されました。調査範囲内でわずかに確認されたごみ穴からは瓦と多数の植木鉢が出土し、武家の**造園**や江戸時代後期の**園芸趣味**の一端が明らかとなってきました。このように三の丸の武家屋敷の庭園遺構が明確に確認できたのは今回が初めてです。それはここが本丸御門を守る**重臣の屋敷地**であったためと考えられます。

池が設けられていたのは、尾張藩家老をつとめる渡辺家の屋敷裏であり、1700 年前後に北側の一部敷地の拡張により更に広大となったほかは、江戸時代を通して移動していません。そして、19 世紀以降に数次にわたり設けられた**水琴窟**（すいきんくつ）やそれに類する排水施設には、18 世紀末以降に居住者となった横井家の趣味・嗜好が現れていると想像されるのです。

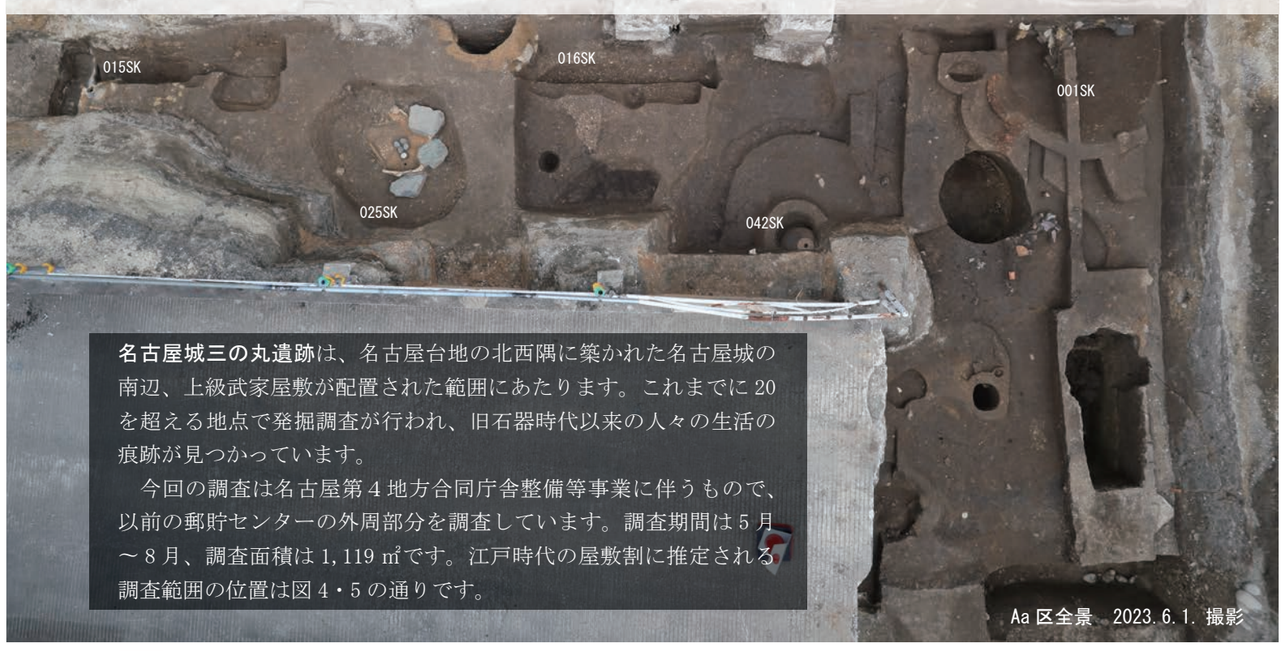
今回の調査成果は、武家屋敷の内部の空間の使い方が階層差や居住者の暮らしぶりにより異なる様相となることを示しています。

調査は継続中です。近世武家屋敷が造られる以前の今川氏や織田氏が居住した頃、**戦国期那古野（なごや）城**の時期の城館を囲む大型の溝（堀）が見えてきました（図 1・3 の灰色破線表示）。こちらの武家屋敷の景観は近世のものとは随分違うようです。

Ab 区（東から）
2023. 6. 21. 撮影

名古屋城三の丸遺跡 地元説明会資料

令和5年 7 月22日（土）午前 10:30～



名古屋城三の丸遺跡は、名古屋台地の北西隅に築かれた名古屋城の南辺、上級武家屋敷が配置された範囲にあたります。これまでに 20 を超える地点で発掘調査が行われ、旧石器時代以来の人々の生活の痕跡が見つかっています。

今回の調査は名古屋第 4 地方合同庁舎整備等事業に伴うもので、以前の郵貯センターの外周部分を調査しています。調査期間は 5 月～ 8 月、調査面積は 1, 119 ㎡です。江戸時代の屋敷割に推定される調査範囲の位置は図 4・5 の通りです。

Aa 区全景　2023. 6. 1. 撮影

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24
http://www.maibun.com

調査支援

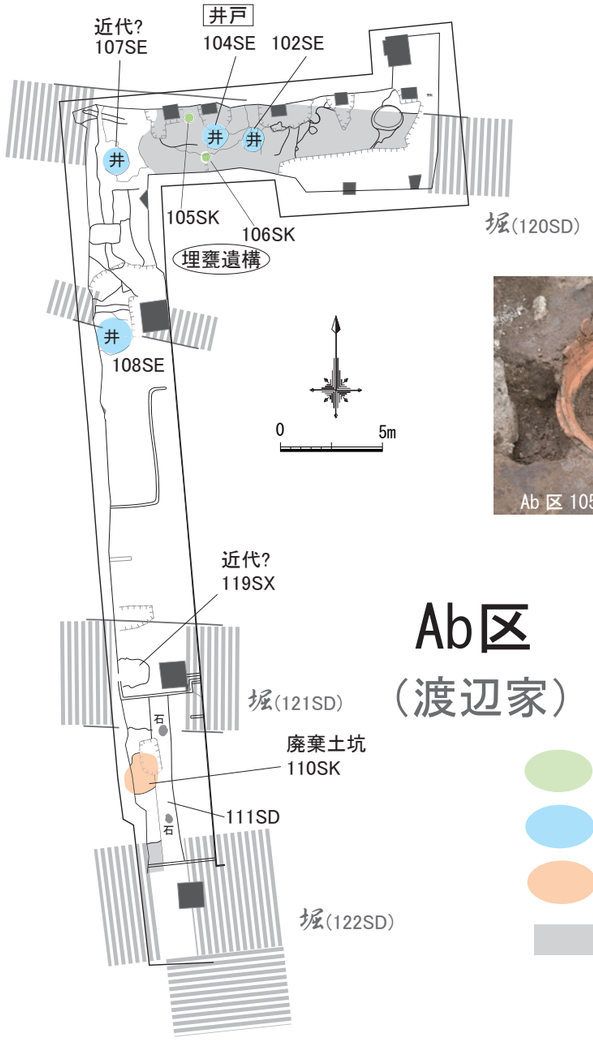
shimada 株式会社島田組
〒581-0034大阪府八尾市弓削南3-20-2
https://shimadagumi.co.jp

Ab 区の近世の主な遺構には、池、井戸 3 基、埋甕遺構 2 基、廃棄土坑 1 基があります。周囲に白色の粘土が貼られた比高差 80cm 程度の凹みを庭園にともなう池と考えています。井戸 102SE、104SE は常滑窯産の井戸筒を積み重ねて井戸側としています。

近代では、井戸（107SE）・花崗岩の蓋石のある遺構（119SX）、割石で埋められた溝（111SX）などがあります。

下層では、戦国期の武家屋敷堀と推定される大型の溝（120SD、121SD、122SD）が確認されました。

Ab 区井戸 102SE の井戸筒



Ab 区 105SE　埋甕遺構の痕跡

Ab区
（渡辺家）

埋甕遺構
井戸
廃棄土坑
戦国期堀（含推定）

図 1 Ab 区の主な遺構（縮尺 1/300）

Aa 区で検出された埋甕遺構

015SK 下部は甕内にもやきものを据える構造であり、今のところ甕の内部で反響する水滴の音をたのしむ「水琴窟」の可能性が考えられます。

Aa 区 042SK
（甕の底部に穴があけられている）

Aa 区 015SK
（最上部は漆喰で擂鉢状の凹みが作られている）

Aa 区 025SK-②

Aa 区 025SK-①

Aa 区 025SK-③

Aa 区 025SK-④

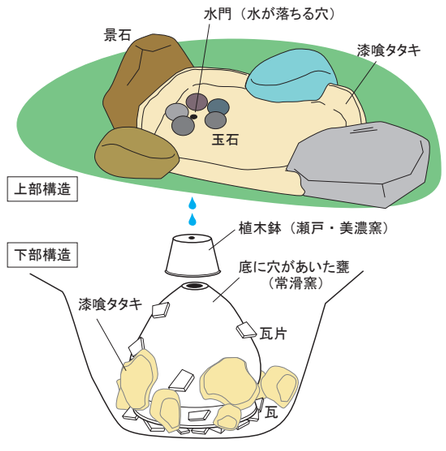
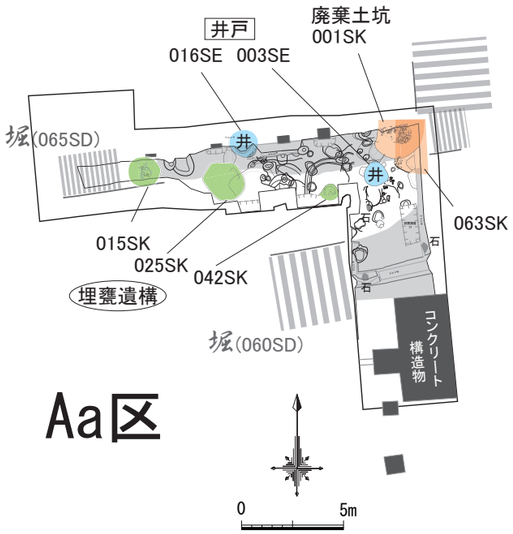


図 2 埋甕遺構 025SK　構造模式図

Aa 区の近世の主な遺構には、江戸時代後期の廃棄土坑（ごみ穴）・排水施設と思われる埋甕遺構・井戸があります。025SK は漆喰で囲まれた水溜の下に天地逆にした植木鉢と常滑窯産の甕が埋められていました。015SK はさらに甕内部に筒状の製品が据えられていました。



（江戸後期：横井家）

図 3 Aa 区の主な遺構（縮尺 1/300）

◆戦国時代の遺構◆

江戸時代の以前、戦国時代にも大型の溝（堀）をめぐらした武家屋敷がありました。Aa 区・Ab 区では下層の遺構として数カ所で確認しています。

下の写真は Aa 区の堀 065SD（東から撮影）です。検出範囲でも深さは地表から約 3m の規模をもち、溝の断面は V 字状、「薬研堀」といわれる戦国時代の堀に特有の形状です。